

建設業

Construction Industry

建設業は、道路や橋、鉄道、空港、ダム、河川、下水道、農業基盤、高層ビルなどの建造物をつくる仕事で、でき上がった建造物は、人々の暮らしを育み、地図に載り、街のシンボルとなり、都市機能や人々の生活、経済に密接に関わっています。

voice
05

人々の生活に役立つ

地図に残る仕事



旭川市

タカハタ建設株式会社

坂田みなみさん

2020(令和2)年入社

澁谷 幸次さん

2006(平成18)年入社

▶「土盛り」を測量・計算し、傾斜のポイントや距離、土量を作業現場のオペレーターさんへ伝えることで作業が行われます。



坂田さん



現場代理人の
澁谷さん

建設現場には、クレーン操縦士や篤職、運搬作業員など様々な職種の人たちがいます。坂田さんの今後の目標は、作業工程に必要な機器の台数や現場の人員体制を管理し、全体をマネジメントすること。坂田さんの大先輩となる澁谷さんは、現場代理人として施工管理や指導監督などを行っています。

Q 建設業の道を選んだ理由を教えてください。

坂田 中学生のとき、父の仕事の関係で北海道開発局が主催していた見学会へ行きました。そこでトンネル工事や道路工事を見学して建設業の仕事があることを知り、この道に進もうと決めました。

Q 現場で初めて作業をしたときの気持ちを教えてください。

坂田 作業員の方とのコミュニケーションをうまくとることができず、想像していた以上に大変だと感じました。学校で学んできたことが基礎としてそのまま仕事に活かせることは少なく、現場で使用している専門用語など勉強していないことや知らないことが様々にあり、大変でした。

Q 仕事をするうえで心がけていることを教えてください。

坂田 橋桁がクレーンで吊られ橋台の上のせられるのを初めて見たとき、「橋の工事は、こんな大作業をするんだ」と強く印象に残りました。人々の生活を支えるインフラ整備に携わることで、「みんなの生活に役立っている」というやりがいと責任感が生まれ、どんなに小さなことでもコツコツと行うことを心がけています。

Q 将来の夢や目標を教えてください。

坂田 自身で現場を動かし、大きな工事に携わりたいという思いがあり、河川や道路など様々な部門の工事に挑戦したいです。私も建設業には「辛い、厳しい」などのイメージがありましたが、測量など様々な仕事があり、「人々のためになる、人々にとって大切な仕事」だと思うようになり、建設業に就くことができずごく良かったと思っています。

Q 高校2年生の皆さんへ、メッセージをお願いします。

澁谷 私は現場代理人をしており、今の現場は4人体制で、新卒の坂田さんはその一人です。「地図に残る仕事」という建設業の魅力を伝えるCMがありますが、一人ではできないこの仕事は、「人との関わり」も面白さであり魅力です。現場代理人として下請の方や発注者と意見を交わし合い、「良いもの」を安全に手戻りなくつくることを目指しています。建設業は、完成したときの喜びや誇り、達成感をみんなで味わえる仕事です。

1日の
仕事の
流れ

6:30

現場事務所へ
出勤

7:30

・朝礼
・ラジオ体操
・現場で写真管理や測量

12:00

事務所へ戻り
昼休み

13:00

業務再開
・測量など

17:00

現場業務終了
・事務所へ戻り翌日の段取り

18:00

退勤



HP

※令和3年(2021年)2月現在の内容を再構成したものです。